



とりい しすい
鳥居 士翠さん

在籍した時期：小学部2年生～中学部2年生（小1までニューヨークの補習校にも在籍）
現在：ダートマス大学1年生で、ニューハンプシャー州在住

Q. 日本語学校はどんな存在でしたか？楽しかった思い出は？

アメリカで日本人の両親から生まれ育って、日本語学校は当たり前の存在でした。毎週、休み時間や昼休み、放課後に友達としゃべったり、遊んだりしたのが、とても楽しかったです。運動会も、日本語学校を辞めてからも見に行くくらい好きでした。今でも多くの友人と毎年会っていて、日本語学校には感謝しかありません。

Q. 日本語学校での経験が役立っていると思うことは？

他の課外活動との両立が難しく、現地校9年生の時に日本語学校は辞めてしまいました。しかし、行けなくなることで日本や日本語に対する興味を持続する必要性を感じ、日本に関わる活動をできる範囲で始めました。コロナ禍では、オンラインで創作漢字の-artをシェアするオリジナル漢字コンテストを新たに開催しました。また、佐賀県の中学校の生徒にZoomで英語を教える活動を日本語学校で知り合った友人と始めました。日本に対する熱量を発散するために、活動を創造する機会を得たことは、将来起業などをする時に役に立つと思っています。



オンラインで日本の中学生に英語を教える鳥居さん（奥）

Q. オリジナル漢字コンテストについて教えてください。

コロナ禍で、ニューヨーク補習校時代からの友人とオンラインでできることを話し合っ、オリジナル漢字コンテストを思いつきました。日本語学校の漢字テストでよく、なんとなく覚えていた漢字が、本物と似ているけれど実在しないものになっていたことにヒントを得ました。今もダートマス大学でTA (Teaching Assistant) として添削をしていると、ユニークな「漢字もどき」を見かけて、やっぱり漢字は難しいけど面白いと思います。立ち上げ当初は応募がまったく来なくて、コンテストの宣伝をするのにとっても苦労しました。ワシントン日本語学校の先生と運営委員会の方に助けてもらって告知できたおかげで、日本語学校の生徒からもたくさんの応募がありました。ありがとうございました。



本校生徒の受賞作品
テーマ「思いやり」

Q. 進学や将来の方向性を決める際、日本や日本語が影響を及ぼしましたか？

合格をいただいた大学から選ぶ際に、自分の専攻であるコンピューターサイエンス以外にも比較的自由に好きな科目をとることができる少人数制の大学にしました。それは、丁寧に教えてくれる環境下で、日本や日本語に関しても勉強をもう一度したかったからです。入学直後からダートマス大学の日本語クラスのTAの仕事をいただく機会にも恵まれました。



今も自分なりの方法で日本と関わり続ける

Q. 将来の目標を教えてください。

高校シニアの時から大学のレースカーチームに入ってレースカー作りに携わっており、エンジニアを目指しています。できれば、日本に関わる仕事か、起業をしたいと思っています。

Q. 在校生へのメッセージ

僕は課外活動との時間が合わずに日本語学校を途中で辞めることになりましたが、日本や日本語に興味があれば、違う形で関わっていくことはできます。日本語学校で知り合った友人との繋がりを大切にしていってください。